

新年あけましておめでとうございます

年末年始はご家族でゆっくり過ごされましたか？今年もコロナも明けて、遠方のおじいちゃん、おばあちゃん、親戚の皆さんと一緒に過ごした子どもたちも多くいることと思います。「日常」の大切さをあらためて思う一年でしたね。

さて、2023年度も残すところあと3ヶ月となりました。今年度は新園長・新主幹メンバーでのスタートでしたが、保護者の皆さんに支えていただき、良い新年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。今年も保護者の皆さんから「ののかぜパワー」をもらいながら、職員一同力を合わせ、子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。たくさん学べる一年に！本年もどうぞよろしくお祈りします。

<12/22 給食試食会&縦割り懇談会大成功>

寒波に見舞われ、また残念ながら体調不良のため欠席家庭も増えましたが、「カレー試食会」も「保母先生にきく、なげなげなげ？」講演も大好評に終わりました。毎年運営委員会主催で開催する「縦割り懇談会」ですが、今年も、ののかぜ保育園のように「父母と職員が共に手をつないで、保育運動をつくり上げていく保育園」は全国的に数少ない（待機時対策で保育園の数が増えていますが）…というところで、せっかくならば皆で理解を深められる機会をつくろう！と運営委員会メンバーで話し合い、テーマを決定しました。「保育にかける思いが伝わって、じんとしました。」「運動の意味が『あ！ そうなんだ！』と、ののかぜ保育園が大事にしていることとつながって、理解が深まりました。」など、温かい感想もたくさんいただいています。ホールの一体感もよかったですね。カレーの準備も、運営委員会保護者の皆さんと職員で楽しく作りました。「かくし味」が何だったかわかりましたか？また、レシピも皆さんにお伝えする予定です。会終了後の交流会も、準備万端（ずらりと並んだご馳走が圧巻でした！）で、子どもたちはとにかく楽しく、大人の交流も盛り上がりとても良い時間でした。準備に奔走してくださった皆さん、ありがとうございました。— 子どもを真ん中に、保護者と職員が手をつないで共に学び合い、支え合い、育ち合うことができる温かいお家のような保育園でありたい—この願ひはののかぜ保育園だけでなく、緑の丘福祉会として大切にしている理念です。これからも、様々な取り組みを通して保護者の皆さんと一緒に歩んでいきたいと思ひます。

<性の健康教育「ひとりひとりの大切なところとからだ」講座に参加して>

先日、同法人名市大さくらんぼ保育所職員の学習会（↑同タイトル）に職員数名で参加しました。「性教育」については、数回の学びでは本当の意味での理解にはならず、自分自身の不十分さを思いその奥深さを痛感しますが、今回の学習もたくさんの学びがありました。その中の一つ、「最低限身につけたい3つのこと」として1. **自分のからだは大切** 2. **快/不快のふれあいを弁別できる** 3. **自分は大切であるという自己肯定感** をあげられ、日常の暮らしのなかで「あなたとあなたの身体はとても大切なものである」というメッセージを丁寧に伝えること、その感覚を小さいうちから身につけること、「おむつかえたら気持ちいいね」等快不快の感覚を等無意識の中で身につけること等、話されました。日頃の子どもたちとの関わり一つ一つが「自分を大切に思う感覚」を育て、それは同時にまわりを大切に作る心も育てます。そんな暮らしをどの子にも…と、様々なことを思う学習会でした。 今月18日（木）午後には助産師さんにきていただき、5歳児さん対象に毎年行っている「いのちの話」を予定しています。自分たちがどうやって生まれてきたのか、おかあさんとあかちゃんがどれだけががんばって生まれてくるのか、自分たちはまわりのたくさんの人が祝福して生まれてきたこと…など、とても温かく伝えて下さり、子どもたちの心に必ず何かが残る、家でのお父さんお母さんとのお話もとても大切な時間となっています。さくらさん、是非とも全員で参加できますようにと思ひます。（主幹 加藤）